

平成18年に福岡県で発生した 飲酒運転による交通死亡事故の被害者遺族体験談

ドーン 一瞬のことです。後ろから1台の車が追突してきました。
「こどもは大丈夫かな。」とすぐ後ろを見たら、こどもは怪我をしていないのでよかったかと、一瞬ほっとした、瞬きをした瞬間くらいです。
次の瞬間に車の中に一気に水が入ってきました。橋から落ちたのです。
「すぐにこどもたちを助けなくては。」となりました。
海に潜って、後ろから小さな割れた窓から車内に入って泳ぎながら、こどもを探し始めました。何も見えない状態、手探りで、1歳2か月の紗彬ちゃん、3歳3か月の倫くん 2人を助け出しました。「絶対に生きて帰るぞ。絶対に家に帰るぞ。」あと、紘くんだけ もうすぐ5歳になる紘彬。「紘くん、紘くん。」と思いながら潜りました。だけど、見つかりませんでした。
見つからなかったら、もう1回。それでも、紘くんは見つかりません。
海面に出ると、絶望の光景がありました。
紗彬ちゃんと倫くんを先に助け、夫に抱っこしてもらっていたら、3人とも海の中に沈んでいました。恐ろしい決断をしなくてははいけませんでした。
紘くんを助けに行っている間に3人は死んでしまいます。3人を諦めなければならない。
紗彬ちゃんと倫くんを助けて、紘くんを諦めるか。 それぐらい時間がなかった。
「みんな助けたいのにな、助かってほしいのにな。」目の前で死んじゃうのかな。
紗彬ちゃんと倫くんを、助けることを選びました。 紘くんを諦める、紘彬は死ぬということ。
「紘くんごめんね、紘くんごめんね。」という思いで「ひろーっ」って叫んで
紗彬ちゃんと倫くんを助けることを選びました。
別々の救急車に運ばれ、別々の病院に行きましたが、結局2人は助かりませんでした。
絶望の中、亡くなった倫くと紗彬ちゃんと家に帰りました。
真夜中に紘くんが車の中から見つかりましたと連絡がありました。

3人のこどもたちが受けた苦しみ、恐怖はどれほどのものだったか。みなさん想像できますか？
真っ暗な夜、海の中で車の中に、閉じ込められて亡くなった紘くん。
一度は生きて助かったのに、息絶えてしまった紗彬ちゃんと倫くん。
私達家族が受けた悲しみや、苦しみと同じ原因でその悲しみや苦しみと向き合いながら生きている人が日本にはたくさんいます。 その原因は、飲酒運転です。
紘くん、倫くん、紗彬ちゃんが、命に代えて残した悲しみのメッセージを私は母として、被害者として伝えます。
飲酒運転というのは自ら、自分が選んで犯している犯罪なんです。
自分が選んで犯罪者になるんです。
飲酒運転の被害に遭って失われる命が、未だにあるんです。
こんなことで尊い命が絶対に奪われてはいけません。未来が奪われてはいけません。
生きていく喜びや希望が奪われてはいけません。
自分の意思で、飲酒運転をしないことを選べる大人になってほしいなと思います。

(一部抜粋)



実際の講演映像はこちらから
ご覧いただけます。

